

令和7年度 学校評価

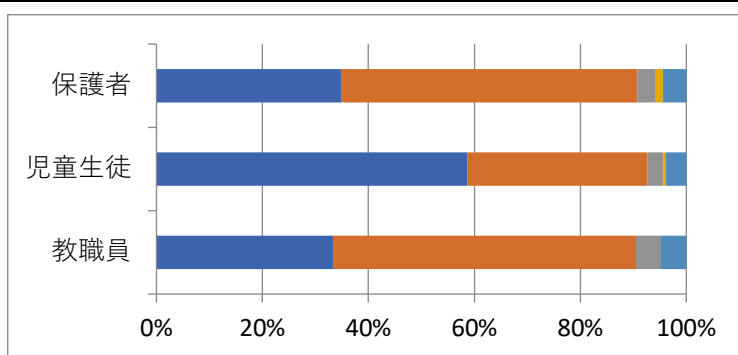
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | 考察 |
|---|--|---|
| 1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など) | 2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。 | 1の項目において、昨年度同様に保護者・児童・教職員の9割以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた。さらに昨年度と比べると「そう思う」と答えた児童の割合が約10%上がっている。心の日週間や親子道徳の日などの取組や体力向上に向けた取組の成果が見られたと考えられる。今後も継続していきたい。ただ、「そう思わない」と答えた教職員もいることから、これまで以上に教職員の連携を大切にし、授業改善に向けた話し合いの時間の確保や授業に対する助言をするなどの取組が必要である。児童の主体性をより高めることができるよう基本的な生活習慣を含めた指導も行なっていく。 2の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が保護者・児童・教職員のいずれも8割を超えており、児童を主体とした授業づくりの取組が浸透してきているように思う。特に児童の「そう思う」の割合が4割程度と一番高いことも今後につながる前向きな結果である。1～2割ほどの「そう思わない」「わからない」の層にも主体的な学びを実感してもらえるような実践を、校内研修等を通して進めていきたい。 |
| | | |
| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | |
| 3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など) | | 3の項目に、保護者・教職員の9割以上が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた。一方で、児童の4割が「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」「分からない」と回答した。学校独自の「どんぐりんピック」の取組や各学年においても地域との活動の取組は行っているものの、児童によって意識の差はあると感じている。今後も継続して、児童がボランティアのよさや学習の成果を実感できるような具体的な手立てを考えていく必要がある。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。 | 学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。 | 4の項目に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が児童と教職員でほぼ同等である。個別最適な学びを教職員側も児童側も感じられているのだといえる。一方で、重要なのはその中身である。現状では、学校や研究の場で個別最適な学びについて共通で実践していることはないで、それぞれが思う個別最適な学びのあり方には差異があると考えられる。実践の共有や研修を踏まえて、学校として目指す方向性について共通認識をもつことが重要である。 5の項目は特に協働的な学びについての認識を問うものとする。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、児童と教職員でともに9割程度に達している。しかしその内訳では、教職員の「そう思う」の割合がかなり低い。「対話を生かす」ことについて、児童が実感していることと教職員が目指す姿に大きく差があることに原因があると考えられる。グッドモデルを示すなど、よりよい協働的な学びの姿を共有していくように心がけたい。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。 | 7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。 | 6の項目に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」に教職員が95%、児童が85%、保護者が75%の結果だった。昨年度と比べると、教職員と保護者が5%低下し、児童が5%上昇した。児童が感じる温かな雰囲気が広がっていることに対し、大人は逆の結果だった。今後も児童の実態や多様なニーズの把握に努めるために校内研修等で特性の理解などの専門性を広げ、校内支援委員会等で情報共有や対応を検討することを大切にすることが必要である。 7の項目に、保護者・児童の8割以上が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた。一方で、保護者の回答は8割を下回っている。昨年度と同じような結果となった。引き続き、道徳や人権学習の取り組みを学年・学級通信で掲載したり、学級懇談会等でインクルーシブ教育について取り上げる等して、啓発を行っていく必要がある。 |
| | | |

(3) 最適な教育環境の整備

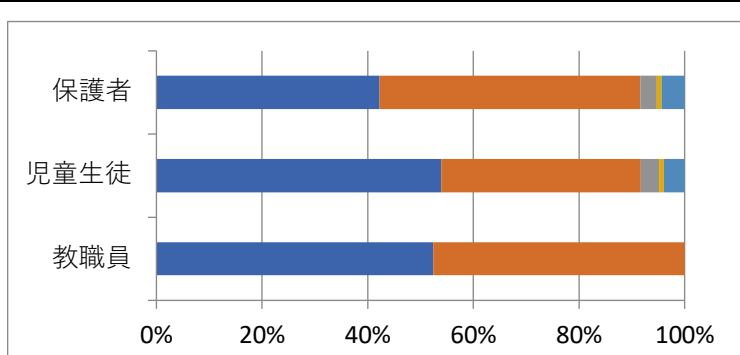
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。



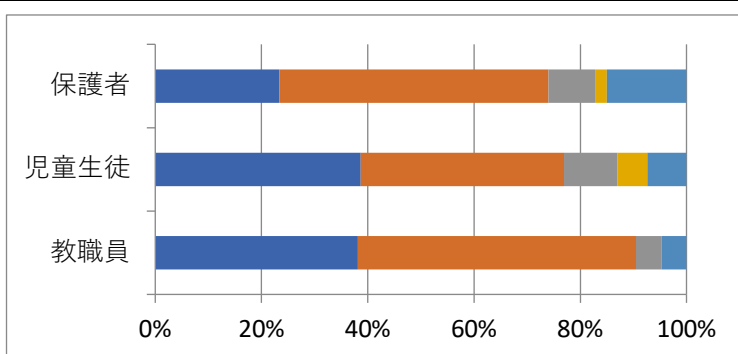
8の項目に対し、保護者・児童・教職員の90%以上が「できている」「どちらかと言うとできている」と回答し、昨年度より約10%上昇した。また、昨年度は保護者の14%が「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答していたが、今年度は5%に減少し、周知の効果が見られる。今後も、学級通信や学級懇談会で交通安全教室や避難訓練の内容を丁寧に紹介し、毎月の安全点検の実施状況を継続的に知らせることで、安全教育の充実を図る必要がある。

9の項目に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者、学校評議員、こどもが約90%、教職員は100%であった。学びたい学習会や各学年による校外学習、校区行事などの積極的参加により交流の機会が増え、今年度も子どもたちは充実した学びができています。今後も可能な限り地域の方との交流方法を模索し、さらに開かれた学校づくりの推進に努めていきたい。

(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

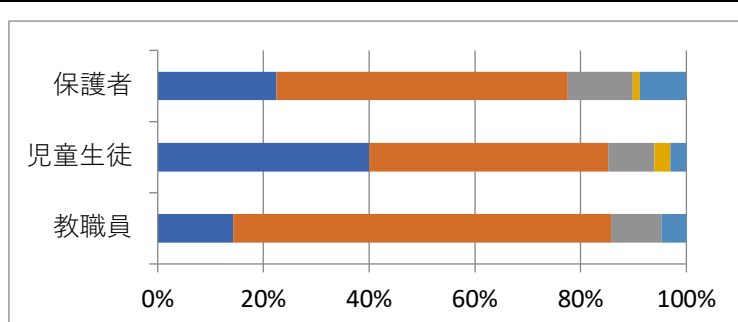


10の項目に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」に教職員が90%、児童が75%、保護者が73%だった。昨年度と比べて教職員が10%低下し保護者は変わらず児童は5%増加した。夏休みの全校での教育相談の周知を継続し、随時の相談に対して関係者による複数での対応や関係機関との積極的連携を行い、より幅広く相談しやすい体制づくりが必要である。

(5) 本校の教育

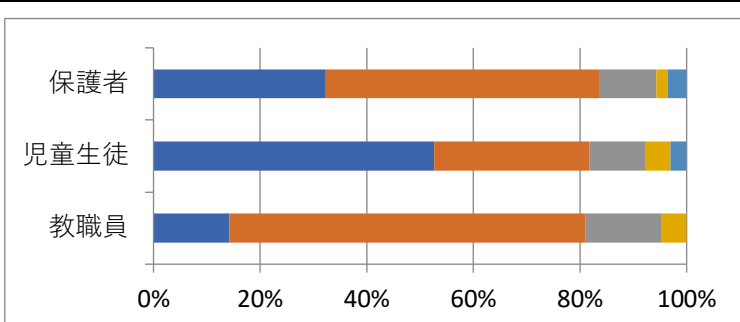
11 健康づくり

子どもは、学校保健委員会が決めたテーマ(規則正しい生活をしよう)を実践していると思いますか。



12 あいさつ

子どもは、気持ちのよいあいさつができていますか。

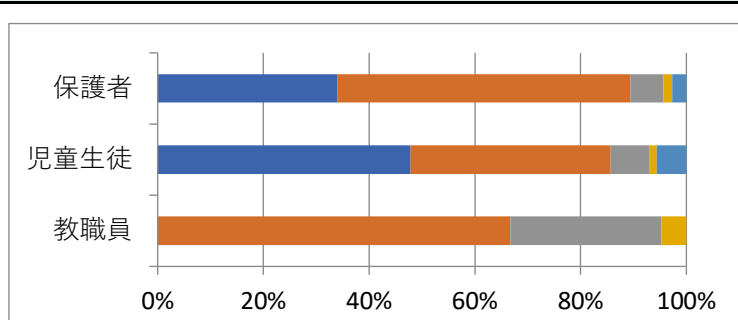


11の項目に対し、保護者・児童・教職員ともに8割以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。とくに児童と教職員では85%が肯定的であり、日々の指導や委員会活動の取組が児童の生活に生かされていると考えられる。一方で、保護者の「わからない」の割合が比較的高く、家庭からは学校の取組が見えにくい面があると推察される。今後は、学校保健委員会便りで定期的な生活チェックの結果などを定期的に発信し、生活習慣の定着と児童の主体的な実践につなげていく必要がある。

12の項目に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が児童・保護者共に約80%だった。3学期も生活安全委員会を中心にあいさつ名人とあいさつ運動の取組を続け、半数以上の児童が自分から進んであいさつをする意識が高まるよう支援していく。

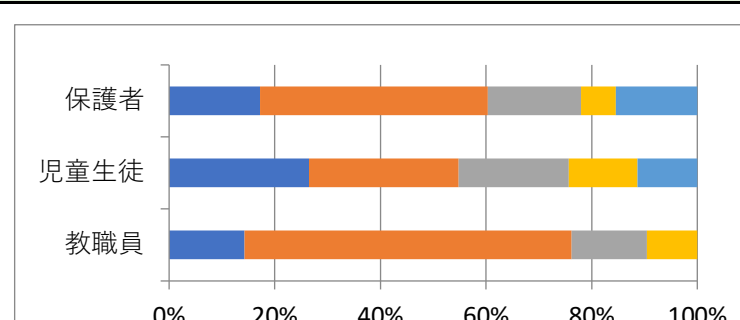
13 きまり

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



14 ボランティア活動

子どもは、すすんでボランティア活動や緑化活動をしていると思いますか。



13の項目に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が児童・保護者共に約85%、教職員が約65%と差が開いた。毎年児童・保護者の意見を参考にしながら校則の見直しを行っている。今後も見直しを行い、児童と一緒にきまりやルールを考える中で、意識し、守るよう声掛けを行っていく。

「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」割合は、児童生徒が60%に対し、教職員の割合は80%である。ボランティア活動に取り組んでいる児童は多いが、「どんぐりんピック」等で学級でボランティア活動だと意識して取り組んでいる児童とそうではない児童の意識の差がみられるように思う。どんぐりんピックで環境緑化整備などの活動に取り組む子どもたちもいたので、どんぐりんピックなども活用しながらボランティア活動が広がるように支援していく必要がある。

来年度の具体的な取組について

(1)主体的に考え行動する力を育む教育の推進

- 授業改善に向けた話し合いの時間の確保や授業に対する助言をするなどの取組の実施。
- 主体的な学びを実感できるような授業の実践。
- 学校独自の「どんぐりんピック」や地域との活動の継続と児童がボランティア活動のよさや学習の成果を実感できるような手立てを考える。

(2) こども一人一人を尊重した教育の推進

- 個別最適な学びについて実践の共有や研修の実施し、学校として目指す方向性について共通認識をもてるようにする。
- よりよい協働的な学びの姿を共有できるように、グッドモデルを示すなどしていく。
- 児童の実態や多様なニーズの把握に努めるために校内研修等で特性の理解などの専門性を広げ、校内支援委員会等で情報共有や対応を検討することを大切にしていく。
- 道徳や人権学習の取り組みを通信に掲載したり、学級懇談会等でインクルーシブ教育について取り上げるなどして啓発を行っていく。

(3)最適な教育環境の整備

- 交通安全教室や避難訓練の内容や毎月の安全点検の実施状況を継続的に通信等で知らせていく。
- 学びたいむ学習会や校外学習、校区の行事等への参加など可能な限り地域の交流を模索し、さらに開かれた学校づくりの推進に努める。

(4) こどものいのちと権利の擁護

- 夏休みの教育相談の周知や随時の相談に対して関係者による複数での対応や関係機関との積極的連携を行い、より幅広く相談しやすい体制づくりをしていく。

(5) 本校の教育

- 学校保健委員会便りで定期的な生活チェックの結果などを定期的に発信し、生活習慣の定着と児童の主体的な実践につなげていく。
- 生活安全委員会を中心にあいさつ名人とあいさつ運動の取組を続け、自分から進んであいさつをする意識が高まるよう支援していく。
- 校則見直しを行い、児童と一緒にきまりやルールを考える中で児童が意識し守ることができるよう声掛けを行っていく。
- どんぐりんピックなどを活用しながら、ボランティア活動が広がるように支援していく。

小中学校関係者評価

- 主体的に考え行動する力を育成するための授業づくりとして、参観を通してICT機器を効果的に使うことがよくできていると感じた。指導者の研修も大変だと思うが、今後も積極的に取り組んでほしい。
- 児童が主体的に課題を解決していく学習形態は、時代が求める力である。授業の中で、その実践がもっと増やせるよう期待している。
- 学校と地域の連携においては、特に本年度は行事への児童の「学習成果の発表の場」としての位置づけができたことが成果である。
- 地域行事で高学年児童が考えたアイデアを形にした地域の力は持続したい。地域企業として積極的に協力していく。
- 生活の決まりがわかりやすく明文化されているのはよい。幼保小連携を進める上で、参考になった。
- 校則見直し委員会を児童主体で実施しているのも効果的だと思う。継続して行ってほしい。
- あいさつについて、80%が肯定的である。しかし地域で見守りをしている中では、校内・外の違いや個人差もあると感じる。心からのあいさつが交わせる教育を進めていく必要がある。